

## はじめに

フェリス女学院大学附属図書館 館長 藤本朝巳

大学図書館の目的とその機能は年々変わりつつあり、本来の図書館業務以外の様々な働きが期待されています。フェリスの図書館も、そうした期待に応えるべく取り組んでいますが、昨年度末に、1階のAV機器の刷新を行い、利用者の方々が映像・音響機器を使用する頻度は増えています。また、電子黒板を設置しラーニング commons 的機能を持つグループ学習室がよく活用されており、従来の読書目的の図書館から、多目的学習の場へと変化しつつあります。

毎年、フェリスの図書館は皆さまのご協力を得て高い評価をいただいています。朝日新聞出版発行の『大学ランキング』でも16年連続A評価を受けています。学生の利用も順調に推移しており、今年の大学祭でも、入館者数が1544人と去年同様、大勢ありました。

図書館は、2002年度から「読書運動プロジェクト(読プロ)」に活発に取り組み、毎年、豊かな実りを結んでいます。この活動では、学生たちが主体的にテーマを決め、それに沿って数回の読書会を開くだけでなく、関連の展示、文学ゆかりの地訪問など、ユニークな企画を立て、実践しています。

今年の読プロのテーマは「洋画から原作へ」でした。前期読書運動科目「今年の一冊」では福永保代先生のご協力を得て、「作品を映画で楽しむ」ことから、原作を(原文で)味わい、文学・芸術・歴史について講義も受け、関連資料(ファンタジー、名作・ドラマなど)の展示活動も重ねました。第2回読書会では館長が講義し、イギリス児童文学「ナルニア国物語」シリーズ『ライオンと魔女』の誕生秘話、作家の制作背景なども楽しく学びました。しばらく休会していました「読み聞かせ」の活動も復活し、地域への貢献もしていきたいと願っています。

一方、後期読書運動科目「読書とメディア」では、編集経験豊富な森亨先生のご指導のもと、「編集する視点から俯瞰し、理解するメディアとコンテンツ」と題してメディアの総合的な知識とリテラシーを実践ベースで学びました。現代はLINE、Facebookなど様々なSNSを使う時代ですが、その学びに加え、卒業論文、就活エントリーシート作成、さらに企画書作成など、学生にとって必須の文書作成とコミュニケーションを多面的に考察する力、メディアリテラシーなどを身に付ける良い機会となりました。

読プロの活動は上記以外にも、「フェリス・ランチ・コミッティー」との学食メニュー企画、ボランティアセンター主催行事での福島県の子どもたちとの交流、神奈川近代文学館での朗読発表会、また大学祭では「縫わずにできちゃう ブックカバーを作ろう!」での制作体験(148名参加)など多彩でしたが、今年の嬉しい成果は創作コンクール(小説・詩・戯曲)に16作もの優秀な作品の応募があったことです。

一方で、図書館にも様々な課題があり、オンラインでの情報検索や収集など、社会の変化に対応できるよう努力しております。また、増え続ける図書の設置空間も確保しなければなりません。皆様のさらなるご理解、ご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。